

はじめに

今年もまた研究紀要（第19集）を通して私どもの活動を紹介することができ、会員一同喜びを感じています。教職に携わる私たちが、本来の業務に加えこうした活動を行う理由として、自己研鑽と恩返しの意識があります。本会の大きな活動の1つとして夏の研究大会があります。4部構成の終日のプログラムで構成されるこの研究大会は、学校関係者だけでなく国際理解教育に興味をもつ一般の方々や学生のみなさんにとっても、学びが多く参加して楽しい内容になっているものと自負しています。それぞれのプログラムを担当するスタッフも、趣向をこらし準備を重ね質の高いものを提供しようと努力することで自らの研鑽となっています。同時に、多くが世界各地の日本人学校に派遣された教員である会員は、赴任先で吸収した多くのことを少しでも山口県に、住んでいる地域に、あるいは勤務している学校に還元できればと考えています。異国の地で体験することは驚きと発見の連続で、それを教育現場に活かしたいという思いもありますが、それ以上に強いのは、恩返しの気持ちです。派遣教員の多くは家族で赴任します。不慣れな土地での生活は戸惑いばかりです。派遣された学校の教職員も面倒を見てくれますが、それ以上にお世話になるのはその土地の方々です。買い物で困っているときに声をかけてくれる店員さん。幼子を連れ行く先も分からずに戸惑っているときに、子どもをあやしてくれた若者。些細なことですが、その一声、その笑顔に救われたことは数知れません。その地で受けた恩を、その方々に返すことはできませんが、何からの形でお返ししたい。そんな思いをもって活動しているのは私だけではないと思います。そう考えると、今年度、山口県が日本人学校の派遣教員を募集しなかったことは誠に残念でなりません。来年は是非、募集が再開されることを祈るのみです。

本誌は会員がこれまで築いてきた実践や本会の今年度の足跡を形にしたものです。手に取られた方には、本会の活動や本誌の内容を近くの誰かと話題にいただければ幸いです。また、本会の活動をいつも支えていただいています山口県教育委員会様、山口市ならびに山口市教育委員会様、山口県国際交流協会様、JICA 様など各団体の皆様に改めてお礼申し上げます。

山口県国際教育研究会
会長 藤井 智寛
(山口市立湯田小学校 校長)